

## 平成12年度第2号（平成12年9月27日発表）

Back

県内のいちご養液栽培（ロックウール）ほ場で、根腐萎凋病（仮称）の発生が初めて確認されました。本病は、激しい根腐れ症状を伴うのが特徴で、下位葉が黄化萎凋後、生育不良になったり、株全体が萎凋枯死する病害です。

### 病害虫名：いちご根腐萎凋病（*Cylindrocarpon destructans*）（仮称）

#### 1 発生確認までの経過

本病は、宮城県のいちご養液栽培で1998年から発生し、今年の4月に行われた日本植物病理学会でいちご根腐萎凋病として提案された。

本県では、5月以降、いちご養液栽培ほ場で激しい根腐れとともに、株全体が萎凋する症状の株が発生した。当センターで病原菌の分離培養を行い、宮城県園芸試験場の菅野博英氏に同定を依頼したところ、本病であることが確認された。

#### 2 病徴

糸状菌（カビ）の一種で、土壌伝染性の菌である。健全な根に対する病原力は弱いですが、湿害等で障害を受けた根に感染して根腐れ症状を起こす。

症状は、大きく分けて2種類あり、

- ①下位葉が黄化萎凋し、のちに株全体が萎凋、その後枯死する。
  - ②草丈が短小で葉も小さく下位葉が黄化し、わい化する。
- ①、②とも根部は、褐～黒色に変色する。しかし、クラウン部や葉柄などの褐変は見られない。



#### 3 防除対策

- ①感染している株のほ場への持ち込みを防止する。
- ②土中で生息している菌なので、苗と未消毒土壌との接触を避ける。

- ③養液の管理を適正に行い、特に多灌水を避ける。
  - ④被害株は、早めに除去する。
  - ⑤薬剤による防除を行う場合は、萎黄病との同時防除とし、ベンレート水和剤1000倍液に10分～30分間根部浸漬を行う。
  - ⑥ロックウール・資材等の再利用は、できるだけ行わないようにする。
- 

詳しくは農業環境指導センターにお問い合わせください。

Tel(028)626-3086

Fax(028)626-3012